



## イソギンチャクの新な住人 - コガシラベラの幼魚 -

9月に入り、夜はずいぶん涼しくなってきましたが、昼はまだ暑くて、海にもぐるとほっとします。その海の中では、この夏産まれたたくさんの魚の子どもたちを見かけます。たとえばマジャノハマでは、枝状のアナサンゴモドキやハマサンゴの群体まわりにデバスズメが群れをつくってきらきらと輝いていますし、海底では小さなムラサメモンガラが、ちょこちょこ泳ぎ回っては、人の姿に驚いて岩のすき間に身をかくしたりしています。ふと見ると、クマノミがいました。すみ家のイソギンチャクがどこにあるのかわからなかったのですが、すこしおどかしてみると、海底付近の岩かげのジュズダマイソギンチャクに逃げこみました。そこには、全部で11個体ものクマノミがすんでいました。一番大きなものは体長10cmくらいでしたが、7個体は3cmに満たない小さなもので、きっとこの夏に生まれ育った子魚たちでしょう。

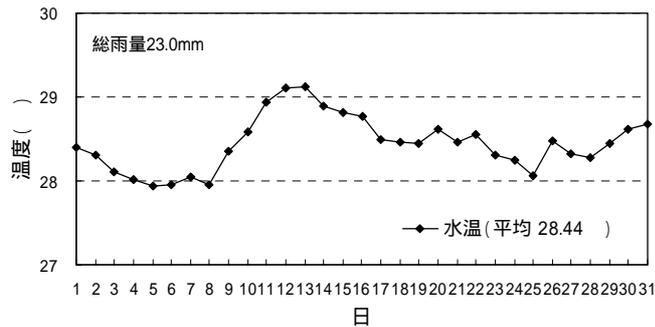
ところで、このクマノミ類のことを英語でなんと呼ぶかご存知でしょうか。答

えは「アネモネフィッシュ (anemonefish)」です。イソギンチャクのことを英語でシー・アネモネ (sea anemone) といい、そこにすむ魚なので、この名があるのでしょう。けれども、クマノミ類以外にもイソギンチャクにすむ魚はいくつもいて、その意味ではそれらも“アネモネ・フィッシュ”と言えるかもしれません。クマノミ類は、これまでに世界で28種が見つかっていて、そのうちの6種が慶良間の海にもすんでいます。また、クマノミ類以外の“アネモネ・フィッシュ”は51種知られていますが、ほとんどは一時的にイソギンチャクにすむ魚だと考えられています。その中でもっとも良く知られているのは、ミツボシクロスズメダイでしょう。特にその幼魚の時期には、タマイタダキイソギンチャクやシライトイソギンチャクについて生活していますし、しばしば大型の個体もイソギンチャクの近くで暮らしているのを見かけます。

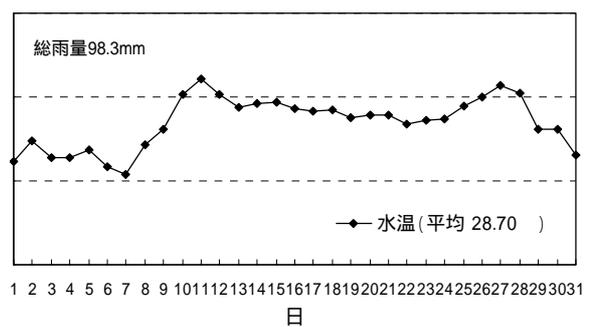
数年前、研究所にたびたびマイクさんというデンマーク人のクマノミ類の研究者がやってきていました。阿嘉島のいくつかの海岸で、イソギンチャクやクマノミ類の数などを調べていたのです。ある日、マイクさんといっしょにあるシライトイソギンチャクを観察していたところ、体に黒い筋のある細長い小魚が、イソギンチャクの触手の間をついっと泳いでいました(冒頭の写真の小魚)。良く見る

## 定点観測

2008年 7月



2008年 8月



と 1 個体ではなく数個体います。そして、少しおどかすと、イソギンチャクの触手の間にかくれながら逃げていました。もっとおどかすとイソギンチャクからはなれて、近くの岩かげにかくれてしまうのですが、それでもしばらくするとまた戻ってきました。どうやらこのイソギンチャクにすんでいるようです。調べてみるとコガシラベラの幼魚で、イソギンチャクにすむ魚としてこれまでにアフリカとインドネシアで見つかっているのですが、今回が世界で 3 番目の報告でした。

その後、マイクさんと調べたところ、阿嘉島のまわりでコガシラベラの幼魚がすむイソギンチャクはタマイタダキイソギンチャクとシライトイソギンチャクで(たぶんセンジュイソギンチャクにもいると思うのですが証拠が残っていません)、コガシラベラの幼魚はタマイタダキイソギンチャクの触手に触れてもその刺胞しほうに刺されないことがわかりました。また、イソギンチャクにいるのは幼魚の時期だけで、しかも幼魚でもイソギンチャクにすまない個体もたくさんいることも経験的に見ています。これらのことから考えると、すべての個体というわけではないようですが、やはりコガシラベラは幼魚の一時期だけイソギンチャクにすみ込む魚のようです。マイクさんは、コガシラベラはイソギンチャクに天敵から身を守ってもらっていて、イソギンチャクはコガシラベラに体の上のごみなどを食べて

掃除してもらっているのだろうと考えています。つまり、2 つの生き物が助け合っている共生関係にあるということです。

きっとみなさんの中には、コガシラベラの幼魚がイソギンチャクにすんでいるのを知っていた人もいるのではないかと思います。自分たちにとっては当たり前のことでも、世界的にはめずらしいことが、まだまだあるのです。

## 阿嘉島の海より

9 月に入ってから日は沈むとめっきり涼しくなってきました。ちょっと肌寒いくらいです。結局、今年の夏は台風が一つも来ませんでした。毎日天気も良く、台風被害に悩まされることがないことはいいことですが、本来来るべきものが来ないのはちょっと心配です。幸い、サンゴが白化するほど海水温はあがりませんでした。これからは水不足が心配です。研究所で観測している 7 月と 8 月の過去 5 年間の降水量をみると、2004 年が 266.8mm、2005 年が 115.0mm、2006 年が 203.2mm、2007 年が 721.4mm、そして今年(2008年)は 121.3mm で、過去 5 年間で 2 番目に少ないことがわかりました。2005 年が一番少なかったのですが、この年は 6 月に 579.6mm も降っていますから、それを考えると、このあと台風の一つでも来ないとまずいかなという感じです。ただし、あんまり強烈なのは勘弁して欲しいところです。